**ロータリーの職業奉仕、知っておきたい 四大用語をお話し致します。**

**第１、（2つのモットー）**

**「最もよく奉仕する者、最も多く報（むく）いられる」と、**

**「超我の奉仕」**

**第２、ロータリーの樹**

**第３、「四つのテスト」**

**第４、「ロータリーは人づくり」を、お話し致します。**

**ページ２**

知っておきたい四大用語の

**第１　「最もよく奉仕する者、最も多く報（むく）いられる」**からお話し致します。

・「HE　PROFITS MOST WHO SERVES BEST」

「**最もよく奉仕する者、最も多く報（むく）いられる**」

これは、**アーサー・フレデリック・シェルドン**が、

1910年の、全米ロータリー大会で 表明（ひょうめい）した言葉です。

1905年、ポール・ハリスと 数名で、発足したロータリークラブの目的や、存在理由について

疑問を持つ人が現れました。

そこでロータリーに、新しい理想を考え、それを明確にするために 委員会が設置されました。

そこで**委員長**に任命されたのが**シェルドン**です。

シェルドンは**悪徳と信用不安**が横行し、消費者は、自分で 自分を 守るしかなかった

当時にあっても、**公明正大（こうめいせいだい）**に、経営している商店や会社が

大成功している事実を知って、その理由を探求（たんきゅう）しました。

その結果 **「職業は、社会に 奉仕する 手段である」** と提唱（ていしょう）しました。

1910年のシカゴ大会の閉会時に、シェルドンは次のように語ります。

**「19世紀の 商習慣（しょうしゅうかん）の特徴は競争です。**

 **出し抜かれる前に出し抜け!!」　と語りました。**

20世紀に入り、人類は賢くなりました。 20世紀の特徴は**協調**です。

人間は、**英知の光に照らして 正しい行為は報われる。**

職業は、人類の奉仕の科学である。

**「もっとも よく奉仕をするもの、最も 多く報（むく）いられる。」**

これが、現在も続いている **職業奉仕の理念**です。

**ページ3**

**次に超我の奉仕についてです。**

**ベンジャミン・フランクリン・コリンズ**は、**ミネアポリスRCの会長**であった、

1911年、ポートランドで行われた全米大会で次のように語りました。

自分のクラブで採用し、厳守してきた原則は

**「サービス・ノット・セルフ（無私(むし)の精神）」**であり、

SERVICE NOT SELF

これによって**クラブを組織**し、新しい会員にも、この精神を 学ばせるのが　**良い**　と語っています。

この標語は、参加者の 賛同を得ましたが、のちに、人はみな

**自己を尊（とうと）**ばなければ、いけなし、**自己を守らないといけない！**

それならば**自己を否定するNOT**より、自己を第二におく**ABOVE（アバブ）**のほうが

**よいのではないか**、ということで

**「SERVICE　ABOVE　SELF」（サービス アバブ セルフ）**に

修正されました。

これら**二つの標語**が、公式の標語になったのは**1950年デトロイト国際大会**においてです。

この二つの標語のうち、**「最もよく奉仕する者、最もよく報いられる」**は、

職業奉仕の理念を表すものであり、 **「超我の奉仕」**は**米山梅吉初代ガバナー**が

訳された **「サービス第一、自己第二」**の 心掛けが **事業成功の秘訣**である　ことを示すと、ともに、**社会奉仕、国際奉仕**の **人道的奉仕の理念**である！！と変化してゆきました。

**ページ４**

**次に、決議23－34が、登場した 時代背景として、**1905年、職業人の親睦を軸に

ロータリーが発足しました。

1910年代になって、**実践（じっせん）を伴（とも）わない**RCの 理念に飽き足らず、

クラブとして **金銭的奉仕**や**身体的奉仕**の実践（じっせん）を、積極的に行うべきである、

という**動きが顕著（けんちょ）**になってきました。

これが**実践派と理念派との対立**に発展してゆきます。

そこで、**国際ロータリー理事会**は、分裂の危機を乗り越えるため1923年

**セントルイスの国際大会** で **決議23-34の採択（さいたく）**によって、

論争に終止符が打たれ、両派の対決は解消しました。

これは、**他人のことを思いやり**、**他人のために尽くそう**、という **奉仕活動の根本原理**を、

明確に定義しています。

**ページ5**

結論として、決議23-34第1条は、ロータリーの**奉仕理念を確定**した唯一の

**ドキュメントとして重要**です。

**「ロータリーは基本的には、一つの人生哲学**であり、

それは、**利己的な 欲求 と 義務 及び、**

**これに伴う他人のために 奉仕したい!! と言う、**

**感情との間に、常に、存在する矛盾（むじゅん）を和らげようと するものであります。**

**この哲学は　「超我の奉仕**」の、哲学であり**、**

**「最も よくするもの、最も報（むく）いられる」　という**

**実践理論の、原則に基づくものである。**と、うたっています。

二つのモットーを一つの主張として捉えると、サービスを自己の利益や都合よりも、優先させよう。

**利益はサービスの結果である。**

相手のために**最善のサービス**をすれば、結果として**最大の金銭的な利益と、大きな精神的な満足が**

**得られる、**ということです。

**ページ6**

決議23－34　第6条では・ロータリーの**奉仕活動**の実践は、**個人奉仕が原則**であること。

クラブ が 行う**奉仕活動**は、**会員の訓練**のための**例示**であると**明記**されております。

これによって**奉仕の実践は、個人奉仕か、団体奉仕**かという、論争に終止符が打たれています。

**ページ7**

**次に、第2、rotaryの樹についてお話しします。**

2008年**RI国際協議会**において **渡辺好政（よしまさ）RI理事**が、

講演を行い、その際に提示された、

**ロータリーの樹・2008**が**2013年RI規定審議会**で採択されました。

ロータリーの樹とは基本理念である、THE　IDEAL　OF　SERVICE

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**【ジ・イディアル・オブ・サービス】**

**（奉仕の理念）を実践（じっせん）**する手段が、**職業奉仕**であることを、

**わかりやすくした図**であります。

クラブ奉仕とは、**例会出席**のことであり、**ロータリーの樹**に、**水と栄養**を送る **「根」** であり、

職業奉仕とは、その上に成長する **「幹 みき」** であり **「奉仕の理想」** と並ぶものと、

位置づけられています。

**青少年奉仕・社会奉仕・国際奉仕・**

**米山奨学金（しょうがくきん）・　ロータリー財団**に、基づく奉仕は

**枝が伸びて 実った 「果実」** であると語っています。

**例会出席を、基本中の基本**とする、**クラブ奉仕なくしてロータリークラブ**

**そのものの存在はあり得ません。**

**ページ8**

ロータリーの樹（き）は幹(みき)ともいわれる **職業奉仕の理念**の、成長なくして、

**果実**とも いうべき、**奉仕活動、青少年奉仕、社会奉仕、国際奉仕**は一切ないといえます。

**ページ9**

次に第３**「四つのテスト」**を、お話し致します。　**テイラーと四つのテスト、**

ロータリーの哲学を 端的に表現し、職業奉仕の 理念の実行に

役立つものとして、**四つのテスト**がございます。

このテストは、シカゴの ロータリアンであり、のちに**ロータリー創始50周年**に

**国際ロータリー会長を 務めたハーバード J テイラー**が

**1932年**の 世界大恐慌（**だいきょうこう**）の時に考えたもので、商取引の公正さを 測る**尺度**として、

多くの ロータリアンに活用されてきました。

ハーバードJテイラーは、大不況の中で、低迷している会社を 再生させるには 会社の中に

同業者には無い 何かを 育成しなければなりませんでした。

**テイラーはその何か！！**に、**社員の人格と信頼性と 奉仕の心**を 選んだそうです。

その育成の指針として会社の全従業員が、使えるような倫理上の尺度として作ったのが

**四つのテスト**です。

**四つのテスト**は簡単な言葉ですが、**クラブ・アルミニウム社**の苦境期の決定を下す基盤となり、

また、**クラブ・アルミニウム社**の、従業員は四つのテストを 暗記するよう求められ、

四つのテストは、仕事のあらゆる面における 指針ともなりました。

RI理事会は1943年に 正式に 四つのテストを　採択し、その版権は1954年、

ハーバード・J テイラーがRI会長の時に 彼から RIに 寄付されました。

**ページ10**

四つのテスト 、

**ロータリーの 目的、職業宣言、五大奉仕**の定義 が

**ロータリーの奉仕の理念と　その実践**を 示すものであるのに対して、

**四つのテストは 日常の商取引・産業活動におけるロータリアンの言行**の

自己評価の為の テスト形式の基準として、導入されました。

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

新入会員に ロータリーを最初に説明するときに、**四つのテスト**がよく使われるように、

このテストの**邦訳（ほうやく）**には、ロータリーの精神が、**ロータリアン**のみならず**一般の職業人**にも

理解できるような形で、簡潔かつ 的確にまとめられています。

**ロータリークラブ**、あるいは **ロータリアン**が 理念の実践を通して社会に対する真実の灯となり、

**重要な規準**となると いっても過言ではないです。

・ロータリーの哲学を 端的に表現し、職業奉仕の理念の 実行に役立つもの

・日常の商取引や、産業活動における、**ロータリアン**の言動の、

自己評価のための、**テスト形式の基準**です。

**ページ11**

1. 真実かどうか　「Is it the truth?」　**（イズ イット ザ トゥルース）**

「真実」　とは、嘘偽りのない 本当のこと、「事実」と 同じか、違うのか？

**「事実」と「真実」の違い**

**事実**（じじつ）は、本当にあった事柄、現実に存在する事柄。

また、**真実**（しんじつ）は、嘘偽りのないこと、本当のことを　意味します。

意味は似ていますが、事実（じじつ）は　ひとつで　**真実（しんじつ）**は複数あると

言われるように、**事実と真実は異なり**、一致しないことの方が多いくらいである。

たんなる 事実(じじつ)か どうかではなく、**物事の原理・原則・根本原理**に適っているかどうか！！と、　言う事です。

ロータリーの**奉仕の精神、**すなわち、**ロータリーの 真実の変遷（へんせん）**にも

それが見られるように思います。

**ページ12**

2,みんなに公平か　　「 Is　 it　 fair to　 all concerned ?」

【**イズ イット フェアー　トー　オール　 コンサーンドゥ**】

・「fair」は「公平」ではなく「公正」

**公平**は**平等分配**で**公正**は、

その場の状況に応じて私的感情をあまり交えずに偏（かたより）なく対処すること。

・**「concerned」** （**コンサーンドゥ**）は

 「四つのテスト」を。。。商取引に限りますが　→　すべての取引先、また、

商取引以外の場でも 使われる可能性を　→　みんな、、、です。

Fairとall concernedと言う、言葉の翻訳（ほんやく）に問題があると思います。

Fairは公平では無く**公正**と捉えた方が良いかも知れません。

公平とは 平等分配 を意味しますので、例えば、贈収賄（**ぞうしゅうわい**）で得た

**unfair（アンフェア―）**な　お金でも 平等に分ければ それで 良いことになります。

オールコンサーンドゥはオールだけが 訳されており、肝心のコンサーンドゥ が**省略**されています。

四つのテストは**「商取引」**の 基準として 定めた文章なので、この コンサーンドゥは**「取引先」**の ことを

意味します。

従ってこのフレーズは「**すべての取引先に対して公正か**」 と いうことを 意味しています。

ロータリアンの　日常生活の　すべての言動に適用し、**『みんなに公正に対処しているか！！』**　の方が、**原文の意味**を適切に伝えていると 思います。

**ページ13**

3. **好意と友情を深めるか　　「Will　 it　 build　　 goodwill and better　 friendship ?」**

　ウィル　 イット ビルド 　グットウィル 　エンド 　ベター フレンドシップ

**goodwill** は単なる好意や善意を表す言葉ではなく、

商売上の信用や 評判を表すと共に、**店の のれんや 取引先**を表します。

すなわち、その商取引が**店の信用を高めると同時**に、よりよい人間関係を築き上げて、

取引先を増やすかどうかを 問うものです。

**「信用を高め、取引先をふやすか」** と 訳すかと思います。

**「好意と友情を深めるか」**の判断で、私的な感情が強く入り過ぎないように、戒めているという

解釈も出来るかと思います。

いずれにしても、**ロータリアンの言行（げんこう）**は

**「この四つの 問いのすべてに　『イエス』**と**答えられるものでなければ ならない」**　と言うことです。

「**自分の考え、意見、行いが 他との好意・友情を一層密にするか**」 という

問いかけであり、他の人々と付き合うときの、ごく自然で 基本的な 対処の仕方になります。

**ページ14**

**4**. みんなのためになるかどうか

「Will　 it be beneficial to　all　 concerned ?の、「beneficial」

**ウィル イット ビー　 ベネフィシャル　ト オール コンサ〜ンドゥ?**

は、四つのテストを 商取引のみに 関連するものと考えれば、**「利益をもたらす」** という

**形容詞**に なりますが、ここでは、もっと広い意味に考えて、**「有益な」**と 訳すのがよいと思います。

**「beneficial」**は、すべての取引先が**適正な利潤**を得るか、

すべての取引先に利益をもたらすか！！また、もう少し広い意味に考え、

**「有益」かどうか**、**みんなのためになるかどうか**

道徳的な基準は、自分が 何かを行うときの 他への 態度 の 規範で ありますが、

それは当然、直接の相手だけでなく、その周辺の人達への配慮も含んでいなければいけません。

これが**「みんなのためになるかどうか」** であると考えられます。

**ページ15**

続いて**「ロータリーはひとづくり」**

ロータリーの　人づくりに関しては、多くの先人たちが　**意味のある**　言葉を残しています。

**米山 梅吉・初代ガバナー**は、**ロータリーの例会は　人生の道場　人づくりの修練の場で　ある。**

など、言葉を残しています。

**ページ16**

**また、ビル・ロビンズ 国際ロータリー会長**　は、**【ロータリーの 第一の仕事は 人を作ること！！】**

など、言葉を残しています。

ーの 第一の仕事は 人を作ること）

**ページ17**

**次に、ロータリーの人づくりには、内 なる人づくり　と 外なる人づくりがあります。**

人づくりは、その対象が**ロータリアン**であるか否（いな）かによって、**「内なる人づくり」と「外なる人づくり」**に分類することができます。

内なる人づくり、すなわち **ロータリアン**の 人づくりとしては、新人研修に始まり、各種フォーラム、

炉辺（ろへん）会議や、戦略委員会、各種の奉仕事業やロータリアンの研修会などをあげることができます。　また、外なる人づくりは**、ロータリアン**以外に　対する　人づくりですが、

**米山奨学生や青少年交換学生**なども、これに含めて考えることができそうです。

※**さまざまな職業奉仕活動を 実践（じっせん）する際には、**

**「ロータリーの職業奉仕　と 言えるためには」 という**

**視点が欠かせないでしょう。**

**ページ18**

最後に・・・　ロータリーは人づくり

ロータリーは人づくりと考えていますが、**人が人をつくることはできません。**

すべて各人（かくじん）が、自ら成長をしていく **「自分づくり」**が 基本であり、ロータリーは

**その成長の後押しをする役目**であります。

**「人づくりは自分づくりの 支援の場 」** と、とらえ、ロータリーの**発展に 寄与（きよ）**

することが必要です。

**ページラスト　　　　　　　　　　　　　ご視聴ありがとうございました。**